

DATE OF EXPORTATION 20061025	EXPORT REFERENCES FedEx AWB
SHIPPER/EXPORTER FROM: (Mr.) YUKUO MORIYAMA ARIUS3D JAPAN REPRESENTATIVE OFFICE 5-1-3 ROPPONGI, MINATO-KU TOKYO 106-0032 JAPAN	CONSIGNEE TO: Mr. Bob Cliffe (718) 297-8844 Hermal Engineering Products Inc. 6520 Lockport Road Niagara Falls, New York, 14302-3507 U.S.A.
COUNTRY OF ORIGIN USA & CANADA	IMPORTER (IF OTHER THAN CONSIGNEE) Mr. John Bell (905) 281-8227 Arius3D Canada Inc. 755 The Queensway East, Unit #20, Mississauga, Ontario, Canada L4V 4G5
COUNTRY OF ULTIMATE DESTINATION CANADA	

第3回・《ふるさとを救おうとした・川上お鶴》



遷宮されました、黒木神社

元の場所には、石碑が建てられています。

TOTAL AMOUNT		TOTAL
US\$84,850.-		
I DECLARE THAT ALL INFORMATION CONTAINED IN THIS INVOICE TO BE TRUE AND CORRECT.		
SIGNATURE OF SHIPPER/EXPORTER		
(Mr.) YUKUO MORIYAMA ARIUS3D JAPAN REPRESENTATIVE OFFICE 5-1-3 ROPPONGI, MINATO-KU TOKYO 106-0032, Japan		
DATE		

今から約278年前の、享保10年(1725年)のこととされています。この年は来る日もくる日も雨が降らず、敬川の水も枯れてきました。田の水がなくなって困ってきた上流の農家の人達は、敬川の川をせき止めて自分たちの田に水を引きました。困ったのは下流の人達です。水が来なくなったので、田の水は枯れて田に割れ目ができて、大切な稲が枯れ、畑の作物も枯れ、飲む井戸水も枯れて、困り果てていました。

そのころ、上流の有福のある家に、奉公に行っている19歳の娘さんがいました。その娘さんは「お鶴さん」といって敬川の川上家の生まれでした。ふるさと敬川の人達が困っていることを知ったお鶴さんは、上流の人達に頼みましたが、せきを外してはくれません。自分たちの田に水が無くては、やはり困るからです。

そこで、お鶴さんは心を決め、夜遅く川のせきを外し敬川に水を送りました。それからは、毎晩のようにせきを外しましたので、上流の人達は番人を置き見張ることとしました。お鶴さんは、ついに番人に見つかってしまったのです。お鶴さんは、ふるさと敬川の方向に向かって必死で逃げましたが、とうとう敬川に着いたところで追いつかれ殺されてしまいました。そのところを「つるが森」と言い、そのあたりを「つるのなわて」と言います。

敬川の人達は、おつるさんが自分の命をかけて、ふるさと敬川のために尽くしてくれたおつるさんに感謝して、郷土の守り神として祭ることとしました。黒木神社がそれで、毎年夏に「ふいてえへえ祭り」といって、古式のお祭りがあります。みぞ堀や牛が出て田を耕したり、たねまき行事でお餅をまいたりするお祭りです。

19歳という若い女の人が、命をかけてふるさとの人を助けようとした、郷土を愛する心を大切にしたいものです。そうした心をいつまでも伝えようと、昭和25年当時19歳の同窓生の方が中心となって黒木神社を建てられました。が、平成10年江津道路建設に伴い有福よりの県道沿いの丘に遷宮されました。

近くに「泰雲院」(たいうんいん)という“いも石塔”があります。これは享保のころ飢饉が続いたのを、芋を栽培して人々を救った大森代官井戸平左衛門の石碑です。くしくも同じころ人々を救った二人が祭ってあるのです。

川波小学校では、時々学習発表会において「お鶴さん」を題材に子どもたちが熱演をしてくれます。